

天皇	攝政	年號	陽曆一日	陰曆	陽曆	陰曆	記	事
一條	藤原	寬弘四	一〇九八七六五四三二一 火日木火土水日	一〇九八七六五四三二一 正二 一〇九八七六五四三二一 陰曆	一〇九八七六五四三二一 正二 一〇九八七六五四三二一 陰曆	一〇九八七六五四三二一 正二 一〇九八七六五四三二一 陰曆	僧性空寂年九十八(佛家) 公卿を召し神鏡を改鑄することを謀す(平安) 冷泉院火す(平安)	
一條	藤原	寬弘五	一一〇九八七六五四三二一 火日木火土水日	一一〇九八七六五四三二一 正二 一一〇九八七六五四三二一 陰曆	一一〇九八七六五四三二一 正二 一一〇九八七六五四三二一 陰曆	一一〇九八七六五四三二一 正二 一一〇九八七六五四三二一 陰曆	冷泉院火す(平安) 藤原伊周の朝參を停じ(史) 藤原伊周の朝參を聴す(史) 具平親王薨す年四十六(紀略) 一條院火く(史) 後朱雀天皇(教良親王)御降臨(御系圖)	
一條	藤原	寬弘六	一一一〇九八七六五四三二一 火日木火土水日	一一一〇九八七六五四三二一 正二 一一一〇九八七六五四三二一 陰曆	一一一〇九八七六五四三二一 正二 一一一〇九八七六五四三二一 陰曆	一一一〇九八七六五四三二一 正二 一一一〇九八七六五四三二一 陰曆	藤原伊周を大臣に准す(史) 華山天皇御崩御年四十一(御系圖) 莊子女王(村上の女御)卒す年七十八(明鑑) 一條天皇(教成親王)御降臨(御系圖)	

天皇	攝政	年號	陽曆一日	陰曆	陽曆	陰曆	記	事
一條	藤原	寬弘六	一一一〇九八七六五四三二一 火日木火土水日	一一一〇九八七六五四三二一 正二 一一一〇九八七六五四三二一 陰曆	一一一〇九八七六五四三二一 正二 一一一〇九八七六五四三二一 陰曆	一一一〇九八七六五四三二一 正二 一一一〇九八七六五四三二一 陰曆	藤原正親王年八十五(紀略) 藤原伊周薨す年三十八(紀略) 大江以言卒す年五十六(紀略)	
三條	藤原	寬弘七	一一二〇九八七六五四三二一 火日木火土水日	一一二〇九八七六五四三二一 正二 一一二〇九八七六五四三二一 陰曆	一一二〇九八七六五四三二一 正二 一一二〇九八七六五四三二一 陰曆	一一二〇九八七六五四三二一 正二 一一二〇九八七六五四三二一 陰曆	一條院火す(史) 一條天皇御讓位御年三十一(御系圖) 三條天皇御受禪御年三十六(御系圖) 敦成親王(後一條天皇)を立て、皇太子となす(史) 一條天皇を尊びて太上天皇と曰ふ(史) 一條天皇御崩御年三十二(御系圖) 藤原研子藤原成子(女御)となす(史) 天皇御即位(史) 冷泉天皇御崩御年六十二(御系圖)	
三條	藤原	寬弘八	一一三〇九八七六五四三二一 火日木火土水日	一一三〇九八七六五四三二一 正二 一一三〇九八七六五四三二一 陰曆	一一三〇九八七六五四三二一 正二 一一三〇九八七六五四三二一 陰曆	一一三〇九八七六五四三二一 正二 一一三〇九八七六五四三二一 陰曆	一條院火す(史) 一條天皇御讓位御年三十二(御系圖) 三條天皇御受禪御年三十七(御系圖) 敦成親王(後一條天皇)を立て、皇太子となす(史) 一條天皇を尊びて太上天皇と曰ふ(史) 一條天皇御崩御年三十三(御系圖) 藤原成子(女御)となす(史) 天皇御即位(史) 冷泉天皇御崩御年六十三(御系圖)	

天皇	後一條	三
攝政	長 道 原 藤	
年 號	七、二、三、五、 陰曆小 一、八、九、六、 正、四、一、 陰曆大 遠、開、 宋、中、 西、和、 紀、元、 一、六、七、六	一、二、三、五、 陰曆小 一、七、八、九、六、 正、四、一、 陰曆大 遠、開、 宋、中、 西、和、 紀、元、 一、六、七、五
陽曆一日	二、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、 日、金、火、日、水、土、水、月、金、木、日	二、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、 金、水、日、金、火、土、水、月、土、水、日
陰曆	一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、正、一、 二、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、 甲、甲、甲、甲、甲、甲、甲、甲、甲、甲、甲、 午、午、午、午、午、午、午、午、午、午、午、	一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、正、一、 二、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、 戊、丁、丁、丙、乙、甲、甲、甲、甲、甲、甲、 子、午、午、午、午、午、午、午、午、午、午、
陽曆	二、一、三、一、 同、同、同、同、 三、二、四、 一、四、 七、四、 二、三、 一、四、 土、土、 日、日、 土、土、	二、一、三、一、 同、同、同、同、 三、二、四、 一、四、 七、四、 二、三、 一、四、 日、日、 土、土、 日、日、
陰曆	一、一、二、一、 同、同、同、同、 一、一、 七、七、 三、三、 七、七、 丁、丁、 未、未、	一、一、二、一、 同、同、同、同、 一、一、 九、九、 二、二、 七、七、 甲、甲、 辰、辰、
記	皇居火く(史) 三條天皇御遷位御年四十一(御系圖) 後一條天皇御受禪御年九(御系圖) 明親王を立て、皇太子となす(史) 左大臣藤原道長を攝政となす(史) 天皇御即位(史) 三條上皇を尊びて太上天皇と曰ふ(史) 攝政左大臣藤原道長左大臣を罷む(史)	中山院火く(史) 大風股富門倒る(平安) 皇居火く(史) 皇居成す天皇御遷位(史) 左大臣藤原道長を攝政に准す(史)
事		

天皇	三
攝政	
年 號	紀元一六七二 長和、壬子 西、和、元 宋、中、祥符五 遠、開、泰元 一、二、三、四、 陰曆大 一、六、八、三、 正、三、一、 陰曆小 一、二、三、 九、四、一、 陰曆大 紀元一六七三 平、癸丑 長和、二 西、和、元 宋、中、祥符六 遠、開、泰元 一、二、三、四、 陰曆大 一、六、八、三、 正、三、一、 陰曆小 一、二、三、 九、四、一、 陰曆大 紀元一六七四 平、甲寅 長和、三 西、和、元 宋、中、祥符七 遠、開、泰元 一、二、三、四、 陰曆大 一、六、八、三、 正、三、一、 陰曆小 一、二、三、 九、四、一、 陰曆大
陽曆一日	二、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、 水、土、日、金、火、土、水、月、金、木、日
陰曆	一、一、二、一、 同、同、同、同、 一、一、 九、九、 二、二、 七、七、 甲、甲、 辰、辰、
陽曆	二、一、三、一、 同、同、同、同、 三、二、四、 一、四、 七、四、 二、三、 一、四、 日、日、 土、土、 日、日、
陰曆	一、一、二、一、 同、同、同、同、 一、一、 九、九、 二、二、 七、七、 甲、甲、 辰、辰、
記	藤原道子(皇母)を尊びて皇太后となす(史) 皇太后(藤原道子)を尊びて太皇太后と曰ひ中宮(藤原道子)を皇太后と曰ひ藤原道子の中宮となす(史) 藤原道子を立て、皇太后となす(史) 大江匡衡卒す年六十一(紀略)
事	

天皇	後 冷 泉			天皇
攝政	藤 原 賴 通			攝政
年 號	紀元一七二二 平、壬寅	西紀一〇六二 康平、壬寅	西紀一〇六三 嘉祥、壬寅	年 號
陽曆一日	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、月	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、月	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、月	陽曆一日
陰 曆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、月	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、月	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、月	陰 曆
陽 曆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、日	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、日	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、日	陽 曆
陰 曆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、日	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、日	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、日	陰 曆
記 事	關白・藤原賴通を太政大臣となす〔史〕 藤原茂子(後三條の女御)卒〔明鑑〕 關白太政大臣・藤原賴通太政大臣を罷む〔史〕 安倍貞任を伊豆に安置す〔史〕			記 事

天皇	後 冷 泉			天皇
攝政	藤 原 賴 通			攝政
年 號	紀元一七二二 平、壬寅	西紀一〇六二 康平、壬寅	西紀一〇六三 嘉祥、壬寅	年 號
陽曆一日	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、月	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、月	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、月	陽曆一日
陰 曆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、月	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、月	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、月	陰 曆
陽 曆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、日	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、日	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、日	陽 曆
陰 曆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、日	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、日	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、日	陰 曆
記 事	右大臣・藤原賴宗罷む〔史〕 前右大臣・藤原賴宗薨す年七十三補任 内大臣・藤原實成右大臣に源師房を内大臣となす〔史〕 是日改元〔史〕			記 事

天皇	白河		
攝政			
年號	七正曆八	九陰曆一	二陰曆二
陽曆一日	一一〇九八七六五四三二一 水 火 土 木 月 金 火 土	一一〇九八七六五四三二一 水 月 金 水 日 木 土	一一〇九八七六五四三二一 月 日 木 土 水
陰曆	一〇九八七六五四三二一 二二二二二二二二二二 乙亥 甲巳 甲辰 癸酉 壬申 辛未 庚子 辛丑	一〇九八七六五四三二一 二二二二二二二二二二 庚午 己巳 戊辰 丁卯 丙寅 乙未 丙寅 乙未	一〇九八七六五四三二一 二二二二二二二二二二 甲子 癸亥 壬戌 辛酉 庚申 己未 戊午 丁巳
陽曆	七、三、二八、月	同、二六、日	九、六、月
陰曆	六、三、一〇、丁卯	同、八、一四、甲辰	八、一四、甲辰
記	是日改元(史) 興福寺僧徒多武味を燒く(史) 延暦寺の僧徒岡城寺を燒く(史)	内大臣・藤原信長を太政大臣に藤原俊家を右大臣に藤原能長を内大臣となす(史) 高麗王醫を求む之を卻く(史) 越前守・宋尚明州の羅を齎らして教實に至れりと(史)	
事			

天皇	白河		
攝政			
年號	七正曆八	九陰曆一	二陰曆二
陽曆一日	一一〇九八七六五四三二一 日 金 火 日 月 土 水 月 金 火	一一〇九八七六五四三二一 日 金 火 日 月 土 水 月 金 火	一一〇九八七六五四三二一 日 金 火 日 月 土 水 月 金 火
陰曆	一〇九八七六五四三二一 二二二二二二二二二二 辛酉 庚申 己未 戊午 丁巳 丙辰 乙卯 甲申 癸酉 壬申 辛未 庚子 辛丑	一〇九八七六五四三二一 二二二二二二二二二二 己未 戊午 丁巳 丙辰 乙卯 甲申 癸酉 壬申 辛未 庚子 辛丑	一〇九八七六五四三二一 二二二二二二二二二二 甲申 癸酉 壬申 辛未 庚子 辛丑
陽曆	九、八、二〇、土	三、二九、土	三、二〇、火
陰曆	八、七、一八、丁巳	六、二、己亥	一、七、九、丁巳
記	伊勢内宮の外院火く(史) 延暦寺僧徒燬す(史) 延暦寺僧徒燬す(史) 源義家をして源重源國房を討たしむ(史)	右大臣・源師房薨す年七十(略記) 源隆國薨す年七十四(補任) 是日改元(史)	
事			

天皇	鳥羽	崇徳	德	
院政	白	河	法	
年	紀元一七八二 平、壬寅 保安三 西紀一四二 宋、宣和四 速、保大二	紀元一七八三 平、癸卯 保安四 西紀一四三 宋、宣和五 速、保大三	紀元一七八四 平、甲辰 天治元 西紀一四四 宋、宣和六 速、保大四	
陽曆一日	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	
陰曆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	
陽曆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	
陰曆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	
記	白河法皇小塔三十萬を法勝寺に安置し給ふ(百鍊)	右大臣・河雅實を左大臣に關白内大臣・藤原忠通を左大臣に藤原家忠を右大臣に源有仁を内大臣となす(史) 顯仁親王(崇徳天皇)を立て、皇太子となす(史) 鳥羽天皇御即位(御年二十一)(御系圖) 崇徳天皇(顯仁親王)御受禪(御年五)(御系圖) 關白左大臣・藤原忠通を攝政となす(史) 鳥羽上皇を尊びて太上天皇と曰ふ(史) 天皇御即位(史) 延暦寺の僧兵京都に入る平忠盛源爲義之を走らす(史)	是日改元(史) 始めて紙圍臨時祭を修して恒例となす(史) 大政大臣・源雅實罷む(史)	中宮(藤原璋子)に號を上りて持賢門院と曰ふ(史)

天皇	崇徳	德
院政	白	河
年	紀元一七八五 平、乙巳 天治二 西紀一四五 宋、宣和七 陰曆大 一七、二、四、 陰曆小 八、三、五、六、 紀元一七八六 平、丙午 大治元 西紀一四六 宋、靖康元	紀元一七八七 平、丁未 天治三 西紀一四七 宋、靖康二 陰曆大 一七、三、五、 陰曆小 八、四、六、七、 紀元一七八八 平、戊申 大治二 西紀一四八 宋、靖康三
陽曆一日	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、
陰曆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、
陽曆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、
陰曆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、
記	是日改元(史)	中宮(藤原璋子)に號を上りて持賢門院と曰ふ(史)

天皇	近衛	近
院政	皇	法
年	紀元一八一三 平、癸酉 仁平、三 西紀一五三 南宋紹興二三 陰曆大 二、四、六、一	紀元一八一四 平、甲戌 久壽、元 西紀一五四 南宋紹興二四 陰曆大 七、八、三、五、〇
陽曆一日	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、
陰曆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、
陽曆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、
陰曆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、
記	平忠盛卒年五十八(世記) 備實信寂年七十(佛家)	鳥羽法皇五十の御實(史)
事		

天皇	近衛	後	白	河
院政	皇	法	羽	鳥
年	紀元一八一三 平、癸酉 仁平、三 西紀一五三 南宋紹興二三 陰曆大 二、四、六、一	紀元一八一四 平、甲戌 久壽、元 西紀一五四 南宋紹興二四 陰曆大 七、八、三、五、〇	紀元一八一五 平、乙亥 久壽、二 西紀一五五 南宋紹興二五 陰曆大 二、八、一、三、六、一	紀元一八一六 開、丙子 保元、元 西紀一五六 南宋紹興二六 陰曆大 七、八、三、五、九
陽曆一日	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、
陰曆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、
陽曆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、
陰曆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、
記	鳥羽法皇五十の御實(史)	源為義其子、爲朝の横暴に坐して官を奪はる(史) 太宰府に勅して源爲朝を捕へしむ(史) 近衛天皇御崩御年十七(御系圖) 後白河天皇(雅仁)王、大統を繼承し給ふ御年二十九(史) 天皇御崩御(史) 源義平源義賢を害す(尊卑) 守仁親王(二條天皇)を立て、皇太子となす(史) 天皇御即位(史)	高陽院(藤原泰子・鳥羽の皇后)御崩御年六十一(明鑑) 是日改元(史) 鳥羽天皇(法皇)御崩御年五十四(明鑑) 保元の亂(史) 前左大臣・藤原賴長歿年三十七(補任) 源爲義斷らる年六十七(尊卑) 崇徳上皇讓位に御還幸(史) 内大臣・藤原能實を左大臣に藤原宗純を右大臣に藤原伊通を内大臣となす(史) 記録所を置く(史) 皇后(藤原多子)を尊びて皇太后と曰ひ中宮(藤原呈子)を皇后と曰ひ藤原忻子を立て、中宮となす(史)	鳥羽法皇五十の御實(史)
事				

天皇	後白河			二條			保元三			平治元		
院政	皇 上 河 白 後			皇 上 河 白 後			皇 上 河 白 後			皇 上 河 白 後		
年 號	紀元一八一七 平、丁丑 保元二 西紀一五七 南宋紹興二七	陰曆大 正、九、一〇 一七、三、五 一〇、九、一〇	陰曆小 八、二、六	紀元一八一八 平、戊寅 保元三 西紀一五八 南宋紹興二八	陰曆大 正、四、七 一〇、四、七	陰曆小 六、八、三、五 一、二、五	紀元一八一九 平、己卯 平治元 西紀一五九 南宋紹興二九	陰曆大 正、二、五 七、九、一〇	陰曆小 三、四、一〇 六、八、一、二	紀元一八二〇 周、庚辰 永曆元 西紀一六〇 南宋紹興三〇	陰曆大 正、二、五 七、九、一〇	陰曆小 三、四、一〇 六、八、一、二
陽曆一日	一、二、一、火	二、三、二、金	三、四、三、土	四、五、四、木	五、六、五、水	六、七、六、火	七、八、七、土	八、九、八、金	九、一〇、九、木	一〇、一一、一〇、火	一一、一二、一一、土	一二、一三、一二、金
陰 曆	一、二、一、火	二、三、二、金	三、四、三、土	四、五、四、木	五、六、五、水	六、七、六、火	七、八、七、土	八、九、八、金	九、一〇、九、木	一〇、一一、一〇、火	一一、一二、一一、土	一二、一三、一二、金
陽 曆	一、二、一、火	二、三、二、金	三、四、三、土	四、五、四、木	五、六、五、水	六、七、六、火	七、八、七、土	八、九、八、金	九、一〇、九、木	一〇、一一、一〇、火	一一、一二、一一、土	一二、一三、一二、金
陰 曆	一、二、一、火	二、三、二、金	三、四、三、土	四、五、四、木	五、六、五、水	六、七、六、火	七、八、七、土	八、九、八、金	九、一〇、九、木	一〇、一一、一〇、火	一一、一二、一一、土	一二、一三、一二、金
記 事	左大臣・藤原實能罷む(史) 太政大臣・藤原實行罷む(史) 内大臣・藤原宗輔を太政大臣に内大臣・藤原伊通を左大臣に藤原基實を右大臣に藤原公敏を内大臣となす(史) 前左大臣・藤原(徳大寺の祖)實能薨乎年六十二(補任) 皇居焼成す天皇御遷徙(史) 彌期を置く(史)			内裏を復す内裏は長元以後行はざること百二十二年なり藤原信西奏して之を復す(平安) 皇太后(藤原多子)を尊びて太皇太后と曰ひ皇后(藤原皇子)を皇太后と曰ひ統子内親王(天皇の準母)を皇后と曰ふ(史) 後白河天皇御遷位御年三十二(御系圖) 二條天皇(守仁親王)御受禪御年十六(御系圖) 關白・藤原忠通薨む右大臣藤原基實を關白となす(史) 白河上皇を尊びて太上天皇と曰ふ(史)			天皇御即位御年十六(史) 皇后(統子内親王)を尊びて上西門院と曰ふ(史) 中宮(藤原忻子)を改めて皇后と曰ひ統子内親王を立て、中宮となす(史) 是日改元(史)			平治の亂(史) 藤原通憲自殺す(史) 藤原通盛・藤原信賴源義朝を破る(史) 平重盛・藤原信賴誅せらる年二十七(補任) 源義朝誅せらる(史) 是日改元(史) 藤原多子(太皇太后)を迎へて宮に入る(史) 源賴朝を伊豆に流す(史) 内大臣・藤原(三條)公教薨す(史) 太政大臣・藤原宗輔罷む(史) 左大臣・藤原伊通を太政大臣に内大臣となす(史) 公敏を右大臣に藤原基房を内大臣となす(史) 美福門院(藤原得子)鳥羽の皇后(御崩御年四十四(百録))		

天皇	後白河			二條			保元三			平治元		
院政	皇 上 河 白 後			皇 上 河 白 後			皇 上 河 白 後			皇 上 河 白 後		
年 號	紀元一八一七 平、丁丑 保元二 西紀一五七 南宋紹興二七	陰曆大 正、九、一〇 一七、三、五 一〇、九、一〇	陰曆小 八、二、六	紀元一八一八 平、戊寅 保元三 西紀一五八 南宋紹興二八	陰曆大 正、四、七 一〇、四、七	陰曆小 六、八、三、五 一、二、五	紀元一八一九 平、己卯 平治元 西紀一五九 南宋紹興二九	陰曆大 正、二、五 七、九、一〇	陰曆小 三、四、一〇 六、八、一、二	紀元一八二〇 周、庚辰 永曆元 西紀一六〇 南宋紹興三〇	陰曆大 正、二、五 七、九、一〇	陰曆小 三、四、一〇 六、八、一、二
陽曆一日	一、二、一、火	二、三、二、金	三、四、三、土	四、五、四、木	五、六、五、水	六、七、六、火	七、八、七、土	八、九、八、金	九、一〇、九、木	一〇、一一、一〇、火	一一、一二、一一、土	一二、一三、一二、金
陰 曆	一、二、一、火	二、三、二、金	三、四、三、土	四、五、四、木	五、六、五、水	六、七、六、火	七、八、七、土	八、九、八、金	九、一〇、九、木	一〇、一一、一〇、火	一一、一二、一一、土	一二、一三、一二、金
陽 曆	一、二、一、火	二、三、二、金	三、四、三、土	四、五、四、木	五、六、五、水	六、七、六、火	七、八、七、土	八、九、八、金	九、一〇、九、木	一〇、一一、一〇、火	一一、一二、一一、土	一二、一三、一二、金
陰 曆	一、二、一、火	二、三、二、金	三、四、三、土	四、五、四、木	五、六、五、水	六、七、六、火	七、八、七、土	八、九、八、金	九、一〇、九、木	一〇、一一、一〇、火	一一、一二、一一、土	一二、一三、一二、金
記 事	左大臣・藤原實能罷む(史) 太政大臣・藤原實行罷む(史) 内大臣・藤原宗輔を太政大臣に内大臣・藤原伊通を左大臣に藤原基實を右大臣に藤原公敏を内大臣となす(史) 前左大臣・藤原(徳大寺の祖)實能薨乎年六十二(補任) 皇居焼成す天皇御遷徙(史) 彌期を置く(史)			内裏を復す内裏は長元以後行はざること百二十二年なり藤原信西奏して之を復す(平安) 皇太后(藤原多子)を尊びて太皇太后と曰ひ皇后(藤原皇子)を皇太后と曰ひ統子内親王(天皇の準母)を皇后と曰ふ(史) 後白河天皇御遷位御年三十二(御系圖) 二條天皇(守仁親王)御受禪御年十六(御系圖) 關白・藤原忠通薨む右大臣藤原基實を關白となす(史) 白河上皇を尊びて太上天皇と曰ふ(史)			天皇御即位御年十六(史) 皇后(統子内親王)を尊びて上西門院と曰ふ(史) 中宮(藤原忻子)を改めて皇后と曰ひ統子内親王を立て、中宮となす(史) 是日改元(史)			平治の亂(史) 藤原通憲自殺す(史) 藤原通盛・藤原信賴源義朝を破る(史) 平重盛・藤原信賴誅せらる年二十七(補任) 源義朝誅せらる(史) 是日改元(史) 藤原多子(太皇太后)を迎へて宮に入る(史) 源賴朝を伊豆に流す(史) 内大臣・藤原(三條)公教薨す(史) 太政大臣・藤原宗輔罷む(史) 左大臣・藤原伊通を太政大臣に内大臣となす(史) 公敏を右大臣に藤原基房を内大臣となす(史) 美福門院(藤原得子)鳥羽の皇后(御崩御年四十四(百録))		

高倉 治承三 安徳 治承四 養和元

Table for the left page (高倉) with columns for 天皇, 政院, 將武, 年, 陽曆一日, 陰曆, 陽曆, 陰曆, 記, 事. It details the reigns of Emperor Toba, Emperor Tsuchi no Ason, and Emperor Toba.

高倉 治承元 三

Table for the right page (高倉) with columns for 天皇, 政院, 將武, 年, 陽曆一日, 陰曆, 陽曆, 陰曆, 記, 事. It details the reigns of Emperor Toba, Emperor Tsuchi no Ason, and Emperor Toba.

二三二

天皇	後鳥羽			天皇
政院	皇 法 河 白 後			政院
將式	朝 賴 源			將式
年 號	紀元一八四七 平、丁未 文治三 西紀一八八七 南宋淳熙一四	紀元一八四八 平、丁未 文治四 西紀一八八八 南宋淳熙一五	紀元一八四九 平、己酉 文治五 西紀一八九九 南宋淳熙一六	年 號
陽曆一日	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	陽曆一日
陰 曆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	陰 曆
陽 曆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	陽 曆
陰 曆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	陰 曆
記	<p>後白河法皇六十の御賀(史) 記録所を置く(史) 安徳天皇を追討す(史) 皇后(亮子内親王)に號を上りて殷富門院と曰ふ(史) 源頼朝(亮子)を修造す(史) 藤原俊成・千載和歌集を上る(史) 藤原秀衡卒す(吾妻)</p>			記

天皇	後鳥羽			天皇
政院	皇 上 河 白 後			政院
將式	朝 賴 源			將式
年 號	紀元一八五一 平、辛亥 建久二 西紀一九一 南宋紹熙二	紀元一八五二 平、壬子 建久三 西紀一九二 南宋紹熙三	紀元一八五三 平、癸丑 建久四 西紀一九三 南宋紹熙四	年 號
陽曆一日	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	陽曆一日
陰 曆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	陰 曆
陽 曆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	陽 曆
陰 曆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、	陰 曆
記	<p>上西門院(統子内親王)御崩御年六十四(百餘) 攝政・藤原實定を太政大臣となす(史) 僧西行寂す年七十三(佛家) 是日改元(史) 攝政太政大臣・藤原實定を太政大臣を罷む(史) 藤原頼子(皇世)に號を上りて七條院と曰ふ(史) 藤原任子を立て、中宮となす(史) 左大臣・藤原實定罷む右大臣・藤原實房を左大臣に内大臣・藤原兼雅を 右大臣に藤原兼房を内大臣となす(史) 東大寺の上棟(史) 源頼朝入朝す(史)</p>			記

天皇	將軍	年	號	陽曆一日	陰曆	陽曆	陰曆	記	事
後鳥羽	建久三	建久三	建久三	一一〇九八七六五四三二一 日金火日木土日月金水	一一〇九八七六五四三二一 日金火日木土日月金水	一一〇九八七六五四三二一 日金火日木土日月金水	一一〇九八七六五四三二一 日金火日木土日月金水	源賴朝入朝(史) 前内大臣・藤原(中山の祖)忠親薨(年六十五(補任)) 東大寺の供養(史) 奥羽に令して強盜・博徒を懲罰するを禁ず(吾妻) 成唯識論述記開板せらる(古刻) 藤原定房薨(年四十七(補任))	
後鳥羽	建久四	建久四	建久四	一一〇九八七六五四三二一 日金火日木土日月金水	一一〇九八七六五四三二一 日金火日木土日月金水	一一〇九八七六五四三二一 日金火日木土日月金水	一一〇九八七六五四三二一 日金火日木土日月金水	源賴朝須野に狩す(吾妻) 源賴朝富士野に狩す(吾妻) 曾我兄弟の復讐・曾我祐成は討たれ時致は捕はる(吾妻) 曾我時致斬らる(年二十)(吾妻) 源賴朝弟・範賴を伊豆に關す(吾妻)	
後鳥羽	建久五	建久五	建久五	一一〇九八七六五四三二一 日金火日木土日月金水	一一〇九八七六五四三二一 日金火日木土日月金水	一一〇九八七六五四三二一 日金火日木土日月金水	一一〇九八七六五四三二一 日金火日木土日月金水	攝政・藤原實成を關白となす(史) 前左大臣・藤原(德大寺)實定薨(年五十三(補任)) 源實朝(子幡)生る(吾妻) 後白河天皇(法皇)御崩(年六十六(御薨)) 曾我時致を征夷大將軍となす(史) 曾我實朝を征夷大將軍となす(史)	

天皇	將軍	年	號	陽曆一日	陰曆	陽曆	陰曆	記	事
後鳥羽	建久五	建久五	建久五	一一〇九八七六五四三二一 日金火日木土日月金水	一一〇九八七六五四三二一 日金火日木土日月金水	一一〇九八七六五四三二一 日金火日木土日月金水	一一〇九八七六五四三二一 日金火日木土日月金水	源賴朝入朝(史) 前内大臣・藤原(中山の祖)忠親薨(年六十五(補任)) 東大寺の供養(史) 奥羽に令して強盜・博徒を懲罰するを禁ず(吾妻) 成唯識論述記開板せらる(古刻) 藤原定房薨(年四十七(補任))	
後鳥羽	建久六	建久六	建久六	一一〇九八七六五四三二一 日金火日木土日月金水	一一〇九八七六五四三二一 日金火日木土日月金水	一一〇九八七六五四三二一 日金火日木土日月金水	一一〇九八七六五四三二一 日金火日木土日月金水	攝政・藤原實成を關白となす(史) 前左大臣・藤原(德大寺)實定薨(年五十三(補任)) 源實朝(子幡)生る(吾妻) 後白河天皇(法皇)御崩(年六十六(御薨)) 曾我時致を征夷大將軍となす(史) 曾我實朝を征夷大將軍となす(史)	
後鳥羽	建久七	建久七	建久七	一一〇九八七六五四三二一 日金火日木土日月金水	一一〇九八七六五四三二一 日金火日木土日月金水	一一〇九八七六五四三二一 日金火日木土日月金水	一一〇九八七六五四三二一 日金火日木土日月金水	源賴朝入朝(史) 前内大臣・藤原(中山の祖)忠親薨(年六十五(補任)) 東大寺の供養(史) 奥羽に令して強盜・博徒を懲罰するを禁ず(吾妻) 成唯識論述記開板せらる(古刻) 藤原定房薨(年四十七(補任))	

土御門 正治元—二 建仁元

天皇	土御門		
武將	家	源	源
年	紀元一八六一 平、辛酉 建仁元 西紀二〇一 南宋、嘉泰元	紀元一八六〇 開、庚申 正治二 西紀二〇〇 南宋、慶元六	紀元一八五九 平、己未 正治元 西紀一九九 南宋、慶元五
陽曆一日	一一、一〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、月 土、木、土、水、日、金、火、日、木、月	一一、一〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、月 金、水、日、金、火、土、水、月	一一、一〇、九、八、七、五、四、三、二、一、月 水、月、金、水、日、木
陰曆	一〇、九、八、七、六、五、四、三、二、正、一、月 二七、二六、二五、二四、二二、二〇、一九、一八、甲辰	一〇、九、八、七、六、五、四、三、二、正、一、月 一六、一五、一四、一三、一〇、九、八、甲辰	一〇、九、八、七、五、四、三、二、正、一、月 一五、一四、一三、一〇、九、八、甲辰
陽曆	九、四、三、二、一、月 一六、一八、日	九、八、七、六、同、四、三、二、一、月 三、一、五、四、日	一一、二五、水
陰曆	八、一、一、戊子	七、六、一、六、庚午	一〇、二八、丁亥
記	是日改元(史) 城長茂謀せらる(晋妻) 下總國葛飾郡の海澄れ千餘人を漂没す(災異)	道元禪師生る(佛家) 醍醐景時父子斬らる(晋妻) 藤原経房幾子年五十九(補任) 平政子鎌倉に壽福寺を創立す(晋妻) 守成親王(順德天皇)を立て、皇太弟となす(史) 幕府念佛宗を禁ず(史) 中宮(藤原任子)に號を上りて宜秋門院と曰ふ(史) 前左大臣・藤原(花山院)兼雅幾子年五十三(補任)	諸將醍醐景時の不義を訴ふ(晋妻)

後鳥羽 建久八 土御門 建久九 正治元

天皇	土御門		後鳥羽	
將軍	家	源	源	源
年	紀元一八五九 平、己未 正治元 西紀一九九 南宋、慶元五	紀元一八五八 平、戊午 建久九 西紀一九八 南宋、慶元四	紀元一八五七 平、丁巳 建久八 西紀一九七 南宋、慶元三	紀元一八五六 平、丙辰 建久七 西紀一九六 南宋、慶元二
陽曆一日	一一、一〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、月 火、日、木、月、金、水、日、木	一一、一〇、九、八、七、五、四、三、二、一、月 火、日、木、月、金、水、日、木	一一、一〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、月 月、土、水、月、金、火、日、木	一一、一〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、月 月、土、水、月、金、火、日、木
陰曆	一〇、九、八、七、六、五、四、三、二、正、一、月 二四、二三、二二、二〇、一九、一八、一七、甲辰	一〇、九、八、七、六、五、四、三、二、正、一、月 二四、二三、二二、二〇、一九、一八、一七、甲辰	一〇、九、八、七、六、五、四、三、二、正、一、月 一四、一三、一二、一〇、九、八、七、六、戊辰	一〇、九、八、七、六、五、四、三、二、正、一、月 一四、一三、一二、一〇、九、八、七、六、戊辰
陽曆	七、五、四、三、二、一、月 二二、二〇、日	七、五、四、三、二、一、月 二二、二〇、日	一〇、二九、水	一〇、二九、水
陰曆	六、四、三、二、一、月 二二、二〇、壬午	六、四、三、二、一、月 二二、二〇、壬午	九、一〇、庚戌	九、一〇、庚戌
記	征夷大將軍・源頼朝幾子年五十三(補任) 源頼家かして守護・地頭を奉行せしむ(晋妻) 僧文覺を佐渡に流す(史) 是日改元(史) 左大臣・藤原兼雅を右大臣・藤原頼實を左大臣に藤原頼實を右大臣となす(史) 右大臣・藤原兼雅を左大臣に藤原頼實を右大臣となす(史)	爲仁親王(土御門天皇)を立て、皇太子となす(史) 後鳥羽天皇(爲仁親王)御受禪即年四(御系圖) 土御門天皇(爲仁親王)御受禪即年四(御系圖) 關白・藤原基通を攝政となす(史) 後鳥羽上皇を尊びて太上天皇と曰ふ(史) 天皇御即位(史) 範子内親王(準皇母)を尊びて皇后と曰ふ(史) 右大臣・藤原兼雅を左大臣に藤原頼實を右大臣となす(史)	太政大臣・藤原兼房罷む(史) 順德天皇(守成親王)御降臨(御系圖)	

天皇	順			德			天皇
軍勝	源			實			軍勝
機執	北			義			機執
年	紀元一八七二			紀元一八七三			年
陽曆一日	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、			一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、			陽曆一日
陰曆	正、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、			正、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、			陰曆
隔曆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、			一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、			隔曆
陰曆	甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸、			甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸、			陰曆
記	曾源空(法然上人)寂于年八十(佛家) 後堀河天皇(茂仁親王)御降誕(明鑑) 新田二十一條を領す(史) 内大臣・藤原信清罷む(史) 藤原道兼を内大臣となす(史)			和田義盛害せらる(吾妻) 延暦清水の二寺兵を擧ぐ(史)			是、改(史) 前内大臣・藤原(西園寺)實宗薨す(史) 建禮門院(平德子・高倉の中宮)御崩御年五十九(明鑑) 延暦寺の僧徒圓成寺を焼く(史) 體子内親王に號を上りて嘉陽門院と曰ふ(史) 興福寺の僧徒の入京を退めしむ(史)
事							

天皇	順			德			天皇
軍勝	源			實			軍勝
機執	北			義			機執
年	紀元一八七五			紀元一八七六			年
陽曆一日	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、			一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、			陽曆一日
陰曆	正、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、			正、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、			陰曆
隔曆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、			一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、			隔曆
陰曆	甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸、			甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸、			陰曆
記	北條時政卒于年七十八(吾妻) 僧空(子光祖師)寂于年七十五(佛家) 右大臣・藤原公經薨む(史)			和田義盛の餘黨滅ぶ(史)			内大臣・藤原道兼を右大臣に藤原公房を内大臣となす(史) 前内大臣・藤原(坊門)信清薨す(百鍊) 股富門院(亮子内親王)御崩(史) 中原廣元大江に復姓す(吾妻)
事							

後堀河 元仁元 嘉祿元 一一

二五一

天皇	後堀河			天皇	
軍將	經	賴	原	藤	軍將
權執	時			北	權執
年號	正元一八八六 平、丙戌 嘉祿二 西紀一二二六 南宋、寶慶二 陰曆大 七、四、六 陰曆小 七、九、一 正、三、五 二、八、一〇	紀元一八八五 平、乙酉 嘉祿元 西紀一二二五 南宋、寶慶元 陰曆大 六、二、四 陰曆小 六、八、一〇 正、一、三 九、一、七	紀元一八八四 平、甲申 元仁 西紀一二二四 南宋、嘉定一七 陰曆大 二、八、一〇 陰曆小 三、六、七	正元一八八二 平、壬午 貞應元 西紀一二二二 南宋、嘉定一五 陰曆大 一、三、五 陰曆小 一、〇、二 正、三、五 七、九、一	年號
陽曆一日	一一、二、一、木 二、三、四、日 三、四、五、金 四、五、六、土 五、六、七、火 六、七、八、水 七、八、九、火 八、九、一〇、土 九、一〇、一一、日	一一、二、一、水 二、三、四、土 三、四、五、火 四、五、六、日 五、六、七、木 六、七、八、金 七、八、九、土 八、九、一〇、日 九、一〇、一一、月	一一、二、一、水 二、三、四、土 三、四、五、火 四、五、六、日 五、六、七、木 六、七、八、金 七、八、九、土 八、九、一〇、日 九、一〇、一一、月	一一、二、一、土 二、三、四、日 三、四、五、金 四、五、六、土 五、六、七、火 六、七、八、水 七、八、九、火 八、九、一〇、土 九、一〇、一一、日	陽曆一日
陰曆	一一、二、一、辛巳 二、三、四、壬子 三、四、五、癸丑 四、五、六、甲寅 五、六、七、乙卯 六、七、八、丙辰 七、八、九、丁巳 八、九、一〇、戊午 九、一〇、一一、己未	一一、二、一、丙子 二、三、四、丁未 三、四、五、戊申 四、五、六、己酉 五、六、七、庚戌 六、七、八、辛亥 七、八、九、壬子 八、九、一〇、癸丑 九、一〇、一一、甲寅	一一、二、一、丙子 二、三、四、丁未 三、四、五、戊申 四、五、六、己酉 五、六、七、庚戌 六、七、八、辛亥 七、八、九、壬子 八、九、一〇、癸丑 九、一〇、一一、甲寅	一一、二、一、庚申 二、三、四、辛卯 三、四、五、壬辰 四、五、六、癸巳 五、六、七、甲午 六、七、八、乙未 七、八、九、丙申 八、九、一〇、丁酉 九、一〇、一一、戊戌	陰曆
陽曆	九、二、六、土 同、三、〇、日 同、四、三、水 同、五、六、火	二、一、七、火 同、二、四、水 同、三、七、土 同、四、〇、日	二、一、七、火 同、二、四、水 同、三、七、土 同、四、〇、日	九、二、六、金 同、三、九、土 同、四、二、日 同、五、五、水	陽曆
陰曆	八、二、六、己酉 同、三、九、壬子 同、四、二、甲寅 同、五、五、丙辰	二、一、二、丁未 同、三、五、庚戌 同、四、八、甲寅 同、五、一、丙辰	二、一、二、丁未 同、三、五、庚戌 同、四、八、甲寅 同、五、一、丙辰	八、二、六、辛卯 同、三、九、甲午 同、四、二、丙申 同、五、五、戊戌	陰曆
記	藤府大番を置く(史) 田地所領を以て賭博の資とするを禁ず(晋妻) 藤原賴經を征夷大將軍となす(史) 藤原長子(藤原有子)を女御となす(史) 中宮(藤原有子)を改めて皇后となし藤原長子(藤原長子)を中宮となす(史) 太政官の文殿火け累代の文書多く亡ぶ(史)	是日改元(史) 右大臣・藤原公繼を左大臣に内大臣・藤原師經を右大臣に藤原良平を内大臣となす(史) 是日改元(史) 大江廣元卒(年七十八)(晋妻) 前太政大臣・藤原(大炊御門)賴實薨(史) 平政子(藤原有子)卒(年六十九)(晋妻) 新制三十六條を下す(史)	是日改元(史) 右大臣・藤原公繼を左大臣に内大臣・藤原師經を右大臣に藤原良平を内大臣となす(史) 是日改元(史) 大江廣元卒(年七十八)(晋妻) 前太政大臣・藤原(大炊御門)賴實薨(史) 平政子(藤原有子)卒(年六十九)(晋妻) 新制三十六條を下す(史)	攝政・藤原實家を開白となす(史) 北條義時卒(年六十二)(晋妻) 皇后(藤原有子)に號を上りて安嘉門院と曰ふ(史) 申れて専修念佛を禁ず(史) 左大臣・藤原家通卒(年二十一)(補任)	記
事					事

後堀河 貞應元 一一

二五〇

天皇	後堀河			天皇	
軍將	經	賴	原	藤	軍將
權執	時			北	權執
年號	正元一八八六 平、丙戌 嘉祿二 西紀一二二六 南宋、寶慶二 陰曆大 七、四、六 陰曆小 七、九、一 正、三、五 二、八、一〇	紀元一八八五 平、乙酉 嘉祿元 西紀一二二五 南宋、寶慶元 陰曆大 六、二、四 陰曆小 六、八、一〇 正、一、三 九、一、七	紀元一八八四 平、甲申 元仁 西紀一二二四 南宋、嘉定一七 陰曆大 二、八、一〇 陰曆小 三、六、七	正元一八八二 平、壬午 貞應元 西紀一二二二 南宋、嘉定一五 陰曆大 一、三、五 陰曆小 一、〇、二 正、三、五 七、九、一	年號
陽曆一日	一一、二、一、木 二、三、四、日 三、四、五、金 四、五、六、土 五、六、七、火 六、七、八、水 七、八、九、火 八、九、一〇、土 九、一〇、一一、日	一一、二、一、水 二、三、四、土 三、四、五、火 四、五、六、日 五、六、七、木 六、七、八、金 七、八、九、土 八、九、一〇、日 九、一〇、一一、月	一一、二、一、水 二、三、四、土 三、四、五、火 四、五、六、日 五、六、七、木 六、七、八、金 七、八、九、土 八、九、一〇、日 九、一〇、一一、月	一一、二、一、土 二、三、四、日 三、四、五、金 四、五、六、土 五、六、七、火 六、七、八、水 七、八、九、火 八、九、一〇、土 九、一〇、一一、日	陽曆一日
陰曆	一一、二、一、辛巳 二、三、四、壬子 三、四、五、癸丑 四、五、六、甲寅 五、六、七、乙卯 六、七、八、丙辰 七、八、九、丁巳 八、九、一〇、戊午 九、一〇、一一、己未	一一、二、一、丙子 二、三、四、丁未 三、四、五、戊申 四、五、六、己酉 五、六、七、庚戌 六、七、八、辛亥 七、八、九、壬子 八、九、一〇、癸丑 九、一〇、一一、甲寅	一一、二、一、丙子 二、三、四、丁未 三、四、五、戊申 四、五、六、己酉 五、六、七、庚戌 六、七、八、辛亥 七、八、九、壬子 八、九、一〇、癸丑 九、一〇、一一、甲寅	一一、二、一、庚申 二、三、四、辛卯 三、四、五、壬辰 四、五、六、癸巳 五、六、七、甲午 六、七、八、乙未 七、八、九、丙申 八、九、一〇、丁酉 九、一〇、一一、戊戌	陰曆
陽曆	九、二、六、土 同、三、〇、日 同、四、三、水 同、五、六、火	二、一、七、火 同、二、四、水 同、三、七、土 同、四、〇、日	二、一、七、火 同、二、四、水 同、三、七、土 同、四、〇、日	九、二、六、金 同、三、九、土 同、四、二、日 同、五、五、水	陽曆
陰曆	八、二、六、己酉 同、三、九、壬子 同、四、二、甲寅 同、五、五、丙辰	二、一、二、丁未 同、三、五、庚戌 同、四、八、甲寅 同、五、一、丙辰	二、一、二、丁未 同、三、五、庚戌 同、四、八、甲寅 同、五、一、丙辰	八、二、六、辛卯 同、三、九、甲午 同、四、二、丙申 同、五、五、戊戌	陰曆
記	藤府大番を置く(史) 田地所領を以て賭博の資とするを禁ず(晋妻) 藤原賴經を征夷大將軍となす(史) 藤原長子(藤原有子)を女御となす(史) 中宮(藤原有子)を改めて皇后となし藤原長子(藤原長子)を中宮となす(史) 太政官の文殿火け累代の文書多く亡ぶ(史)	是日改元(史) 右大臣・藤原公繼を左大臣に内大臣・藤原師經を右大臣に藤原良平を内大臣となす(史) 是日改元(史) 大江廣元卒(年七十八)(晋妻) 前太政大臣・藤原(大炊御門)賴實薨(史) 平政子(藤原有子)卒(年六十九)(晋妻) 新制三十六條を下す(史)	是日改元(史) 右大臣・藤原公繼を左大臣に内大臣・藤原師經を右大臣に藤原良平を内大臣となす(史) 是日改元(史) 大江廣元卒(年七十八)(晋妻) 前太政大臣・藤原(大炊御門)賴實薨(史) 平政子(藤原有子)卒(年六十九)(晋妻) 新制三十六條を下す(史)	攝政・藤原實家を開白となす(史) 北條義時卒(年六十二)(晋妻) 皇后(藤原有子)に號を上りて安嘉門院と曰ふ(史) 申れて専修念佛を禁ず(史) 左大臣・藤原家通卒(年二十一)(補任)	記
事					事

天皇	龜山			
	山		龜	
	王	親	尊	宗
權執	時		北	
年	三、一、一〇、五、二、八、二、	六、一、一〇、七、九、四、	元、南、宋、景、定、二、	元、西、紀、二、六、〇、
陽曆一日	一、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、	一、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、	一、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、	一、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、
陰曆	一、九、八、七、六、五、四、三、二、一、	一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、	一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、	一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、
陽曆	二、九、七、六、五、四、三、二、一、	三、八、七、六、五、四、三、二、一、	四、七、六、五、四、三、二、一、	五、六、五、四、三、二、一、
陰曆	一、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、	一、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、	一、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、	一、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、
記事	<p>前右大臣・藤原公相を左大臣となす(史)</p> <p>後深草天皇御即位御年十八(御系圖)</p> <p>龜山天皇(恒仁親王)御受禪御年十一(御系圖)</p> <p>後深草上皇を尊びて上天皇と曰ふ(史)</p> <p>中宮(藤原公相)に號を上りて東二條院と曰ふ(史)</p> <p>天皇御即位(史)</p> <p>朝廷園城寺の戒壇を許す(史)</p> <p>朝廷園城寺の戒壇を停む(史)</p> <p>是日改元(史)</p> <p>藤原實有實子年五十八(補任)</p> <p>藤原信子を女御となす(明鑑)</p> <p>藤原信子を立て、中宮となす(史)</p> <p>是日改元(史)</p> <p>左大臣・藤原公相罷む(史)</p> <p>義子内親王に號を上り、和德門院と曰ふ(史)</p> <p>右大臣・藤原實雄を左大臣に内大臣・藤原基平を右大臣に藤原公親を内大臣となす(史)</p> <p>關白・藤原兼平罷む(史)</p> <p>關白・藤原良實を關白となす(史)</p> <p>藤原璋子を女御となす(史)</p> <p>中宮(藤原信子)を改めて皇后となし藤原璋子を立て、中宮となす(史)</p> <p>北條重時卒年六十四(吾妻)</p>			

龜山 正元元 文應元 弘長元

天皇	後深草			
	草		後	
	王	親	尊	宗
權執	時		北	
年	七、三、九、五、六、二、	一、八、一、〇、四、一、	正、元、元	紀、元、一、九、一、九、
陽曆一日	一、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、	一、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、	一、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、	一、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、
陰曆	一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、	一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、	一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、	一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、
陽曆	二、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、	三、二、〇、八、七、六、五、四、三、二、一、	四、三、〇、七、六、五、四、三、二、一、	五、四、〇、六、五、四、三、二、一、
陰曆	一、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、	一、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、	一、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、	一、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、
記事	<p>前右大臣・藤原(大炊御門)師經薨す(史)</p> <p>是日改元(史)</p> <p>關白・藤原(同慶)兼經薨す年五十一(補任)</p> <p>皇居火く(史)</p> <p>左大臣・藤原(二條)道長薨す年二十七(百鍊)</p> <p>内大臣・藤原公基を右大臣に藤原實雄を内大臣となす(史)</p> <p>前番六番を置く(吾妻)</p> <p>格子番六番を置く(吾妻)</p> <p>延曆寺の僧徒園城寺を断ふ(史)</p> <p>恒仁親王(龜山天皇)を立て、皇太弟となす(史)</p> <p>右大臣・藤原公基罷む(史)</p> <p>内大臣・藤原實雄を右大臣に藤原基平を内大臣となす(史)</p> <p>藤原公相を立て、中宮となす(史)</p> <p>太政官藤原火く(史)</p> <p>是日改元(史)</p> <p>承明門院(源在子)後鳥羽の妃(薨す年八十六(百鍊))</p> <p>右大臣・藤原公相罷む(史)</p>			

後深草 正元元 二 正元元

後字多 弘安二—四

天皇	多 字 後				天皇	
軍將	王 親 康 惟				軍將	
權執	宗 時 條 北				權執	
年 號	紀元一九四〇 平、辛巳 弘安二 西紀一二八一 元至元一八 元、至元一八 陰曆大 一八、九、一〇 陰曆小 一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 正曆三 二、三、四、五、六、七、八、九、一〇	紀元一九三九 閏、庚辰 弘安三 西紀一二八〇 元至元一七 元、至元一七 陰曆大 一七、八、九、一〇 陰曆小 一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇	紀元一九三九 閏、庚辰 弘安三 西紀一二八〇 元至元一七 元、至元一七 陰曆大 一七、八、九、一〇 陰曆小 一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇	紀元一九三九 閏、庚辰 弘安三 西紀一二八〇 元至元一七 元、至元一七 陰曆大 一七、八、九、一〇 陰曆小 一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇	紀元一九三七 平、丁丑 建治三 西紀一二七六 元至元一四 元、至元一四 陰曆大 一四、五、六、七、八、九、一〇 陰曆小 一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇	年 號
陽曆一日	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 月、日、月、日、月、日、月、日、月、日	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 日、日、日、日、日、日、日、日、日、日	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 日、日、日、日、日、日、日、日、日、日	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 日、日、日、日、日、日、日、日、日、日	陽曆一日	
陰 曆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸	陰 曆	
陽 曆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸	陽 曆	
陽 曆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸	陽 曆	
陰 曆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸	陰 曆	
記	前内大臣・藤原(花山院)師繼、年六十(史愚) 元兵大舉して来り(史愚) 大般若經を石清水に轉讀せしめ、また七社に元寇の平がん事を禱る(史愚) 是日大風・元寇の兵船多く覆没して我軍大捷を得たり(史愚) 僧徒・元寇の兵船多く覆没して我軍大捷を得たり(史愚) 金峰山の僧徒・元寇の兵船多く覆没して我軍大捷を得たり(史愚) 北條義政卒す年四十(開闢)				記	

天皇	多 字 後				天皇	
軍將	王 親 康 惟				軍將	
權執	宗 時 條 北				權執	
年 號	紀元一九三九 平、己卯 弘安二 西紀一二七九 元至元一七 元、至元一七 陰曆大 一七、八、九、一〇 陰曆小 一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 正曆三 二、三、四、五、六、七、八、九、一〇	紀元一九三九 閏、庚辰 弘安三 西紀一二八〇 元至元一七 元、至元一七 陰曆大 一七、八、九、一〇 陰曆小 一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇	紀元一九三九 閏、庚辰 弘安三 西紀一二八〇 元至元一七 元、至元一七 陰曆大 一七、八、九、一〇 陰曆小 一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇	紀元一九三九 閏、庚辰 弘安三 西紀一二八〇 元至元一七 元、至元一七 陰曆大 一七、八、九、一〇 陰曆小 一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇	紀元一九三七 平、丁丑 建治三 西紀一二七六 元至元一四 元、至元一四 陰曆大 一四、五、六、七、八、九、一〇 陰曆小 一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇	年 號
陽曆一日	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 月、日、月、日、月、日、月、日、月、日	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 日、日、日、日、日、日、日、日、日、日	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 日、日、日、日、日、日、日、日、日、日	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 日、日、日、日、日、日、日、日、日、日	陽曆一日	
陰 曆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸	陰 曆	
陽 曆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸	陽 曆	
陽 曆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸	陽 曆	
陰 曆	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇 甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸	陰 曆	
記	攝政・藤原兼平か改めて關白となす(史愚) 藤原爲教、年五十四(補任) 元の使者を博多に斬る(史愚) 幕府奏す蒙古既に宋を滅す日本も危し(史愚)				記	

後字多 建治三 弘安元—二

天皇	見				伏				
	王		親		明		久		
	時		貞		條		北		
年	九、二、陰曆小 一、五、七	六、正、陰曆大 一、八、三、四、〇	元、四、紀一、二、九、六 元、貞、二	紀元一、九、五、六 元、仁、四、甲	二、八、陰曆小 一、〇、四、一、六	一、五、正、陰曆大 一、七、二、三、九	元、四、紀一、二、九、五 元、貞、元	紀元一、九、五、五 元、仁、乙、未	
陽曆一日	二、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、 土、木、月、土、水、日、金、火、日、木、水、日	二、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、 土、木、月、土、水、日、金、火、日、木、水、日	二、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、 土、木、月、土、水、日、金、火、日、木、水、日	二、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、 土、木、月、土、水、日、金、火、日、木、水、日	二、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、 土、木、月、土、水、日、金、火、日、木、水、日	二、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、 土、木、月、土、水、日、金、火、日、木、水、日	二、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、 土、木、月、土、水、日、金、火、日、木、水、日	二、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、 土、木、月、土、水、日、金、火、日、木、水、日	
陰曆	〇、九、八、七、六、五、四、三、二、正、一、 二、八、二、七、六、五、四、三、二、一、 癸、癸、壬、壬、辛、庚、辛、庚、己、未、戊、子	〇、九、八、七、六、五、四、三、二、正、一、 二、八、二、七、六、五、四、三、二、一、 癸、癸、壬、壬、辛、庚、辛、庚、己、未、戊、子	〇、九、八、七、六、五、四、三、二、正、一、 二、八、二、七、六、五、四、三、二、一、 癸、癸、壬、壬、辛、庚、辛、庚、己、未、戊、子	〇、九、八、七、六、五、四、三、二、正、一、 二、八、二、七、六、五、四、三、二、一、 癸、癸、壬、壬、辛、庚、辛、庚、己、未、戊、子	〇、九、八、七、六、五、四、三、二、正、一、 二、八、二、七、六、五、四、三、二、一、 癸、癸、壬、壬、辛、庚、辛、庚、己、未、戊、子	〇、九、八、七、六、五、四、三、二、正、一、 二、八、二、七、六、五、四、三、二、一、 癸、癸、壬、壬、辛、庚、辛、庚、己、未、戊、子	〇、九、八、七、六、五、四、三、二、正、一、 二、八、二、七、六、五、四、三、二、一、 癸、癸、壬、壬、辛、庚、辛、庚、己、未、戊、子	〇、九、八、七、六、五、四、三、二、正、一、 二、八、二、七、六、五、四、三、二、一、 癸、癸、壬、壬、辛、庚、辛、庚、己、未、戊、子	〇、九、八、七、六、五、四、三、二、正、一、 二、八、二、七、六、五、四、三、二、一、 癸、癸、壬、壬、辛、庚、辛、庚、己、未、戊、子
陽曆	九、八、三、一、六、日、金	七、二、六、四、日、木	同、二、七、金	同、二、七、金	同、二、七、金	同、二、七、金	同、二、七、金	同、二、七、金	
陰曆	八、七、二、四、辛卯	七、二、四、辛卯	同、一、九、丙辰	同、一、九、丙辰	同、一、九、丙辰	同、一、九、丙辰	同、一、九、丙辰	同、一、九、丙辰	
記	新陽明門院(藤原一近衛)位子・龜山の紀(幾子年三十五(史愚)) 關白・藤原家基(史愚) 前關白・藤原(近衛)家基(幾子年三十六(史愚)) 左大臣・藤原家基(關白となす(史愚)) 憲子内親王に號を上りて昭慶門院といふ(史愚)				北條領時(武家)年二十一(開關)				
事									

天皇	見				伏				
	王		親		明		久		
	時		貞		條		北		
年	九、二、陰曆小 一、五、七	六、正、陰曆大 一、八、三、四、〇	元、四、紀一、二、九、六 元、貞、二	紀元一、九、五、六 元、仁、四、甲	二、八、陰曆小 一、〇、四、一、六	一、五、正、陰曆大 一、七、二、三、九	元、四、紀一、二、九、五 元、貞、元	紀元一、九、五、五 元、仁、乙、未	
陽曆一日	二、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、 土、木、月、土、水、日、金、火、日、木、水、日	二、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、 土、木、月、土、水、日、金、火、日、木、水、日	二、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、 土、木、月、土、水、日、金、火、日、木、水、日	二、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、 土、木、月、土、水、日、金、火、日、木、水、日	二、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、 土、木、月、土、水、日、金、火、日、木、水、日	二、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、 土、木、月、土、水、日、金、火、日、木、水、日	二、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、 土、木、月、土、水、日、金、火、日、木、水、日	二、一、〇、九、八、七、六、五、四、三、二、一、 土、木、月、土、水、日、金、火、日、木、水、日	
陰曆	〇、九、八、七、六、五、四、三、二、正、一、 二、八、二、七、六、五、四、三、二、一、 癸、癸、壬、壬、辛、庚、辛、庚、己、未、戊、子	〇、九、八、七、六、五、四、三、二、正、一、 二、八、二、七、六、五、四、三、二、一、 癸、癸、壬、壬、辛、庚、辛、庚、己、未、戊、子	〇、九、八、七、六、五、四、三、二、正、一、 二、八、二、七、六、五、四、三、二、一、 癸、癸、壬、壬、辛、庚、辛、庚、己、未、戊、子	〇、九、八、七、六、五、四、三、二、正、一、 二、八、二、七、六、五、四、三、二、一、 癸、癸、壬、壬、辛、庚、辛、庚、己、未、戊、子	〇、九、八、七、六、五、四、三、二、正、一、 二、八、二、七、六、五、四、三、二、一、 癸、癸、壬、壬、辛、庚、辛、庚、己、未、戊、子	〇、九、八、七、六、五、四、三、二、正、一、 二、八、二、七、六、五、四、三、二、一、 癸、癸、壬、壬、辛、庚、辛、庚、己、未、戊、子	〇、九、八、七、六、五、四、三、二、正、一、 二、八、二、七、六、五、四、三、二、一、 癸、癸、壬、壬、辛、庚、辛、庚、己、未、戊、子	〇、九、八、七、六、五、四、三、二、正、一、 二、八、二、七、六、五、四、三、二、一、 癸、癸、壬、壬、辛、庚、辛、庚、己、未、戊、子	〇、九、八、七、六、五、四、三、二、正、一、 二、八、二、七、六、五、四、三、二、一、 癸、癸、壬、壬、辛、庚、辛、庚、己、未、戊、子
陽曆	九、八、三、一、六、日、金	七、二、六、四、日、木	同、二、七、金	同、二、七、金	同、二、七、金	同、二、七、金	同、二、七、金	同、二、七、金	
陰曆	八、七、二、四、辛卯	七、二、四、辛卯	同、一、九、丙辰	同、一、九、丙辰	同、一、九、丙辰	同、一、九、丙辰	同、一、九、丙辰	同、一、九、丙辰	
記	關白左大臣・藤原忠教左大臣を罷む(史愚) 前内大臣・藤原實家太政大臣に右大臣・藤原兼忠を左大臣に内大臣・藤原兼基を右大臣に藤原公季を内大臣となす(史愚) 興福寺の叢訴により藤原教經以下の何人を罷む(史愚) 内大臣・藤原公季罷む(史愚) 源定實を大臣に準ず(史愚) 大宮院(藤原一四國寺)信子・後醍醐の中宮(御崩御年六十八(史愚)) 藤原實重を内大臣となす(史愚)				太政大臣・藤原實家罷む(史愚) 内大臣・藤原實重罷む(史愚) 藤原師教を内大臣となす(史愚) 關白・藤原忠教罷む(史愚) 關白・藤原家基を關白となす(史愚) 是日改元(史愚)				
事	前攝政・藤原(一條)家經幾子年四十六(史愚) 久子内親王に號を上りて永陽門院と曰ふ(史愚) 前關白・藤原(實家)の孫・藤原(實家)幾子年六十六(史愚) 五條院(標子内親王・龜山の紀)幾子年三十三(史愚)								

伏見 永仁五 後伏見 永仁六 正安元

Table with columns for Emperor (天皇), Military Rank (軍將), and Regency (權執). It details the reigns of Emperor Enryū (永仁) and Emperor Shōan (正安), including dates, lunar phases, and historical events.

後伏見 正安元 二 後二條 正安三

Table with columns for Emperor (天皇), Military Rank (軍將), and Regency (權執). It details the reigns of Emperor Shōan (正安) and Emperor Nijō (後二條), including dates, lunar phases, and historical events.

天皇	後二條			
軍將	王	親	明	久
權執	時	師	條	北
年	九二陰 一四曆 一六小	七正 一八曆 一五大	元西 一三曆 一〇元	紀元 一六六 平元 元
陽曆日	一一〇九 二一、月金	一〇九八 二一、月木	一一〇九 二一、月火	一一〇九 二一、月金
陰曆	〇九八七 一七、月甲	〇九八七 一七、月甲	〇九八七 一七、月甲	〇九八七 一七、月甲
陽曆	五、二、 一三、九、 二一、金	〇、同、 一四、八、 二二、月	〇、同、 一四、八、 二二、月	〇、同、 一四、八、 二二、月
陰曆	三、三〇、 庚子	九、同、 一五、己未	九、同、 一五、己未	九、同、 一五、己未
記	關白左大臣・藤原師教左大臣を罷む(史愚) 右大臣・藤原冬平を左大臣に内大臣・藤原家平を右大臣に準大臣・藤原實家を内大臣となす(史愚) 前大臣・藤原定實を準大臣となす(史愚)	關白左大臣・藤原師教左大臣を罷む(史愚) 右大臣・藤原冬平を左大臣に内大臣・藤原家平を右大臣に準大臣・藤原實家を内大臣となす(史愚) 前大臣・藤原定實を準大臣となす(史愚)	關白左大臣・藤原師教左大臣を罷む(史愚) 右大臣・藤原冬平を左大臣に内大臣・藤原家平を右大臣に準大臣・藤原實家を内大臣となす(史愚) 前大臣・藤原定實を準大臣となす(史愚)	内大臣・藤原(一條)内實を準大臣となす(史愚) 藤原爲世・新後醍醐和歌集を上る(史愚) 藤原家平を内大臣となす(史愚) 京都の活酒を禁ず(史愚) 阿蘇山噴火(史愚) 興福寺の僧徒達摩寺を焼く(史愚) 關白・藤原基經を左大臣・藤原師教を關白となす(史愚) 藤原光定を準大臣・藤原(德大寺)公孝を準大臣となす(史愚) 前大臣・藤原(德大寺)公孝を準大臣となす(史愚) 北條師時を連署に補す(史愚) 龜山天皇(法皇)御崩御年五十七(御系圖)

天皇	後二條			
軍將	王	親	明	久
權執	時	師	條	北
年	七二陰 九四曆 一〇五小	六正 一八曆 一四大	元西 一三曆 一〇元	紀元 一六六 平元 元
陽曆日	一一〇九 二一、月金	一一〇九 二一、月木	一一〇九 二一、月火	一一〇九 二一、月金
陰曆	〇九八七 一七、月甲	〇九八七 一七、月甲	〇九八七 一七、月甲	〇九八七 一七、月甲
陽曆	五、二、 一三、九、 二一、金	〇、同、 一四、八、 二二、月	〇、同、 一四、八、 二二、月	〇、同、 一四、八、 二二、月
陰曆	三、三〇、 庚子	九、同、 一五、己未	九、同、 一五、己未	九、同、 一五、己未
記	體子内親王(後醍醐の妃)榮年七十一(明鑑) 瑛子内親王に號を上りて永嘉門院と曰ふ(史愚) 藤原忻子を女御となす(史愚) 是日改元(史愚) 右大臣・藤原公季を太政大臣に内大臣・藤原冬平を右大臣に藤原内實を内大臣となす(史愚)	體子内親王(後醍醐の妃)榮年七十一(明鑑) 瑛子内親王に號を上りて永嘉門院と曰ふ(史愚) 藤原忻子を女御となす(史愚) 是日改元(史愚) 右大臣・藤原公季を太政大臣に内大臣・藤原冬平を右大臣に藤原内實を内大臣となす(史愚)	體子内親王(後醍醐の妃)榮年七十一(明鑑) 瑛子内親王に號を上りて永嘉門院と曰ふ(史愚) 藤原忻子を女御となす(史愚) 是日改元(史愚) 右大臣・藤原公季を太政大臣に内大臣・藤原冬平を右大臣に藤原内實を内大臣となす(史愚)	僧忍性寂年八十七(佛家) 是日改元(史愚) 藤原忻子を中宮となす(史愚)

Table for the period 後醍醐 嘉曆二—三元徳元. Columns include 天皇, 軍將, 年號, 陽曆一日, 陰曆, 陽曆, 陰曆, 記, 事. Rows are organized by 王 (時, 高, 邦, 守) and 親 (高, 條, 北).

Table for the period 後醍醐 元徳元—二元弘元【北】光嚴. Columns include 南朝北朝, 天皇, 軍將, 年號, 陽曆一日, 陰曆, 陽曆, 陰曆, 記, 事. Rows are organized by 王 (時, 高, 邦, 守) and 親 (高, 條, 北).

安德天皇

陽曆	陰曆	記
皇紀一八四〇 西曆一八一〇	治承四、庚子 二、二一、癸卯	高倉天皇御即位御年二十(御系圖) 安德天皇(皇太子・盲人親王、御父は高倉天皇、御母は平德子、太政大臣・清盛の女) 御受禪、御年三(御系圖)
支那宋、一三 西曆、一〇 夏、一〇 金、二〇		關白・内大臣・藤原基通攝政となす。
朝鮮高麗明宗光 孝王〇		
三、二五、火		
三、三一、月	二、二七、己酉	先帝(高倉)を尊びて大上天皇と曰ふ。
四、一、火	二、二八、庚戌	
四、一〇、木	三、七、己未	
四、二〇、日	三、一七、己巳	
五、一、木	三、二八、庚辰	
五、一〇、土	四、七、己丑	
五、二〇、火	四、一七、己亥	
五、二五、日	四、二二、甲辰	天皇、御即位。

太陽曆詳表見本

太陽曆詳表見本

皇紀二四五八	寛政一〇、戊午	櫻井信徳(補)何員没す、年八十六(寛系)
西曆一七九八	正、四、己巳	
支那清、嘉慶二		
朝鮮 正宗一九		
二、一九、月	正、五、庚午	
二、二〇、火	正、七、壬申	坪内定賢(補)何員没す、年八十(寛系)
二、二二、木	正、八、癸酉	建部廣寛(補)何員没す、年五十三(寛系)
二、二三、金	正、一四、己卯	
三、一、木	正、一七、壬午	儒者 岳(大竹)麻谷(清暉、補)何員没す(墓所、年七十二) 武江 ○武江年表、二十七日に作る、名人 辰録、大竹麻谷を二十七日に、岳清暉を十七 日に作れり、蓋し武江と墓所一覽とに採りしものか。
三、四、日		佛人 神谷(村上、一椀亭)武(補)何員没す、年六十(名人)
三、六、火	正、一九、甲申	窪田直喬(補)何員没す、年五十五(寛系)
三、八、木	正、二一、丙戌	本多忠義(補)何員没す、年二十二(寛系)
三、一〇、土	正、二五、庚寅	戸田氏興(補)何員没す、年二十(寛系)
三、一二、月	正、二七、壬辰	僧桑達(眞宗、補)何員没す、年五十七(佛家)
三、一四、水	二、一、乙未	
三、一七、土	二、四、戊戌	
三、二〇、火	二、六、庚子	間宮公信(補)何員没す、年五十(寛系)
三、二二、木		

フレツテンワウ 武烈天皇 (御系圖) 人皇第二十五代

となし、(明鑑)第二十六代に作る、御父は仁賢天皇、御母は春日大姫皇女、雄略の女、(人名)一九四九、(譯文)一、七二、(史)六。

○日本書紀に武烈天皇の庶政を誤入せしより、水鏡、神皇正統記、神皇正統記、扶桑略記、皇極經世、神代卷等、若しくは近世著作なる本朝通鑑、大日本史等、みな其誤謬を傳へて、天皇を暴悪なる君主となしたるは、誠に臣民として、恐懼に耐えざる次第なり、讀者諸賢、左の記文を讀覽するを要す。

○さて武烈記の疑はしきよしは、内山眞龍(文化九年没す)といふ人の書紀類聚解(この書いま傳はらず)にはじめていへる由なり、次で齋藤彦麻呂(安政六年没す)といふ人、その説に己の説を加へて武烈天皇暴悪論を述べざるを著したり、また明治の初年に叔父(落合直文)の直説がその考證したるものあり、また直説が考證を見て、仙台の人、渡藤信通といふ人も一篇の文章をもつたり、予(直文)この段の疑はしきは、年來思ひ居ることに、明治十九年の東洋學會に於て一場の演説をなしたる事ありき、その後、諸書を引さらば、且つ前後に照し合せて愈々百濟王の惡、を奏せし表文の、操へたる事を知りぬ、然るに之を辨するに當り、かの説はかくこそありけれ、この論はしかありたりなど、一々之れを擧げんには、反て事實の錯亂を極め、その意味の徹底せざらんを恐るれば、今日は先聖の説と予の考を一括して是を辨せん(中略、詳細は原書を見るを可とす、或、長文なれば省略せり)之を要するに、この天皇の暴悪なる御行狀、なかりしは明白なりし事なり、されば早速

太陽曆詳表補表見本

これをばかまほし(之を省きて日本歴代の天皇には、御一方も暴悪の君はあらせ玉はのて、ほこらんとするにはあらず、實際か、御行狀のなき事なればなり)否、はぶかすばならぬ事なり、然るに齋藤氏これを唱へてより、あまた年を経たり、されど筆を取りて、この紀をかく者、何れも之を改むるを知らず、その儘に打ち捨て置くは如何ぞや、俗儒出で、愚臣を誅殺せんとすれば、世人怒ち之に應じ、かゝる正論出づれば、恬として顧みず、實に浮世なるかな、日本書紀なるものは勅撰なり、撰りに之れを破るべからずと云ふか、もとより之を削れと云ふべからず、これより以後の歴史に録さるるを欲するのみ、古事記の傳はらんことを勸告するのみ、我が歴史にとりて、不親切なるのみならず、日本歴史の仇敵と云はんのみ(論議)

○紀に未だなる淫虐の内行を年記に記すれど、一も存するに足らず、何の意味なるにや、思ふに雄略の比より、大臣・大連の跋扈に從ひ、神事峻酷になり、帝に至り、まづ法を廢にされしに因りて、殘虐の君と言ひ傳へたるたらん(古代史)

○武烈専ら刑名を好み、殘暴肆行す、習は以て諫を拒ぐに足り言は以て非を飾るに足る、故に大臣大伴金村・大伴室の如き有りと雖も、師保の訓、入る能はざるなり、孰が仁賢の子にして暴虐此の如きの君ありと謂んや、其百姓離絶して啼く者、四起するに至らざるは、祖宗の餘烈に由ると雖も、亦其の天實災爽にして、善く獄訟を斷じ、兩を納し、枉ら伸べ、決して劣の主に非ず、此れ其の天祿を克保する所以のものならんか(史記)

ケイタイテンワウ 繼體天皇 (御系圖) 人皇第二十

クスノキマサシゲ 楠木正成 (普通は楠と記すれども、それは藤原と誤記せるの類にて、正確ならざるものを知るべし)(人名二六六、譯文四、三九八、史一六九)

楠木正成は河内の人なり、その父母を詳にせず、既に長じて兵衛尉となる、元享二年伊國保田莊司胤を起す、正成、關東の命に因りて、討て之を平ぐ、功を以て其舊領を賜はる、嘉弘元年八月、後醍醐天皇、北條高時を避けて笠置寺に幸す、正成を召して討賊の事を托す、正成、乃ち河内の東條に歸り、赤坂山に城を築き、以て勤王の兵を擧げ、行在急あらば、則ち將に駕を此に迎へんとす、尊良親王、護良親王も亦入城せらる、九月十五日、東軍大舉して赤坂城を圍む、十月二十一日、城遂に陥り、正成、護良親王等皆逃る、二年冬、正成、金剛山の諸城に據り、以て遙に吉野の護良親王の軍に應ず、三年正月五日、正成、東軍と河内の天見に戦ひ、大に之を破り、河内、和泉を略し、十九日、進んで東軍を天王寺に攻め、復大に之を破る、二十三日、旅を振へて金剛山に還る、二十三日、宇都宮金剛、東軍の援兵を率ゐて天王寺に來る、見る所なきを以て、二月二日、北條氏、丹後船井庄の賞を懸けて以て正成を求む、故に東軍赤坂、千早の諸城に還ること頗る急なり、正成善く防ぐ、東軍數々利ならず、二十七日、千早城東軍に降りしが、幾もなくして復正成の手に歸せり、三月五日、正成、東軍と戦ひ大捷す、五月九日、正成、東軍と戦ひ、又大に之を破る、東軍遂に大和に遁走し、金剛山の圍み始めて解く、會々天皇伯耆に幸し、諸將改めて六波羅を拔き、車駕關に還る、六月二日、正成、天皇を兵庫に迎請す、八月五日、功を以て攝津、河内兩國の守と爲り

河内大夫判官と稱し、檢非違使を兼ね、建武元年二月、從五位下に叙す、檢非違使舊の如し、五月十八日、恩賞方四番、及び記録所寄入を置き、雜決所所定の條規を定め、五畿七道に分掌せしむ、正成、恩賞方三番に入り、畿内、山陰、山陽道を掌る、八月、雜決所所員を増して八番となす、正成、一番の所員と爲り、五畿内を掌る、九月二十一日、天皇、石清水に幸し、明日、相國寺に供養を行はる、百官扈從す、正成、足利尊氏、名和長年等と兵を率ゐて警衛す、二十三日、天皇、石清水より東寺に幸し、塔供養を行ふこと二日に、佐々木時信、南大門を守り、法會中、雜人と闘ひ殺傷を出す、事不法に屬す、故に正成、命を奉じて代り守る、十月北條氏の餘黨、紀州の飯盛山に據りて反す、正成、三善信連と之を擊つて殊功あり、延元元年、尊氏、關を犯す、正成、宇治を守る、正月七日、高山高國等、來り攻め、連日合戦す、平等院、兵饑に瀕る、十日、天皇、神護寺に幸して東飯本に幸す、十一日、尊氏、京都に入る、十六日、正成、北高顯家、新田義貞等と細川定輝を三井寺に攻めて之を破る、二十七日、正成、顯家、義貞、長年等と、尊氏を賀茂河原に撃ち、二十八日、天皇、京都に還幸し、成就護國院に御す、此月、正成、族、楠木正家を遣はして、常陸を徇へしむ、二月十日、正成、尊氏と攝津の西宮に戦ふ、其夜、正成、退陣す、翌日、義貞、尊氏を撃つ、尊氏、船に乗じて西國に赴く(此時、正成、尊氏と和せんことを獻策せる旨、梅松論に見えたり、而して南北朝時代史、倒叙日本史、並に正成の言を推稱せり、然れども事、正成の人格に關する重大問題なるを以て、暫く一説として茲に載せず、四月、武者所の結番を定む正成五番の所員

331

153

終